

持続的種子生産に向けた生産・供給体制構築支援

【令和7年度予算額 40（-）百万円】
（関連事業：産地生産基盤パワーアップ事業（土地利用型作物種子枠））

＜対策のポイント＞

稲、麦類及び大豆の種子生産に当たっては、一般栽培に比べ熟練者の手作業を前提とした労働集約型の作業体系になっていることから、担い手の減少と高齢化の進展により種子生産体制が脆弱化しつつあります。将来にわたる持続的な種子生産や多様なニーズに対応した生産・供給体制を構築するため、新規種子生産者の参入促進や気候変動対応品種・多収品種等の種子生産の取組を支援します。

＜事業目標＞

- 事業実施の開始年から4年以内に一般栽培に供給

＜事業の内容＞

1. 新規品種導入に向けた生産・供給体制構築支援 30百万円

気候変動に対応した品種や多収品種等の多様なニーズに対応した稲、麦類及び大豆の新規導入品種への転換に必要な種子生産・供給体制を構築するための取組や必要となる機械の導入を支援します。

2. 種子生産への新規参入の促進支援 10百万円

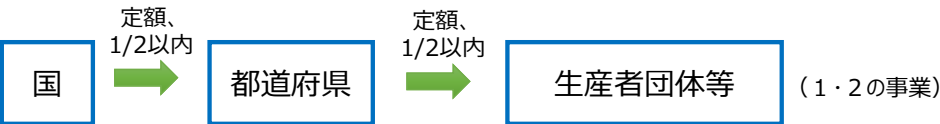
新たに種子生産に取り組む農業者に対して支援します。
支援内容：2万円/10a 以内（予算の範囲内で配分）

※気候変動に対応した品種や多収品種等の多様なニーズの需要動向に対応した稲、麦類及び大豆品種の生産を行う者に対して優先採択

【関連事業：産地生産基盤パワーアップ事業（土地利用型作物種子枠）】

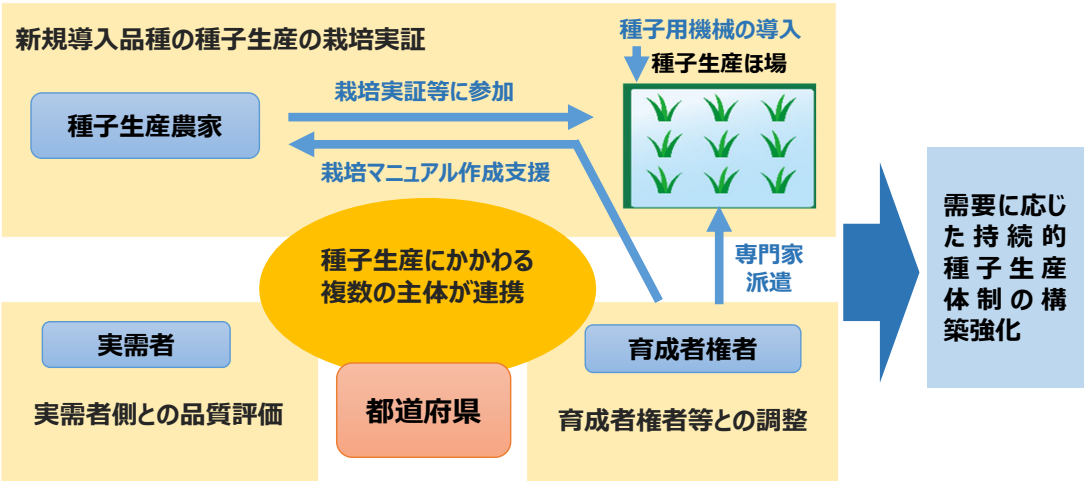
稲、麦類及び豆類の種子について、持続的な種子の生産・供給体制を強化するため、労働負担の軽減が図られる省力機械の導入を支援します。（補助率：1/2）

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

【新規品種導入に向けた生産・供給体制構築支援】



【関連事業：産地生産基盤パワーアップ事業（土地利用型作物種子枠）】

省力機械の導入

種子用コンバイン

水位センサー

農業用ドローン